

## 2015 年度 社会福祉法人たまご会 事業報告書

### 1) 2015 年度 障害者活動センターたまご 事業総括

#### 事業内容

- ・ 障害者活動センターたまご  
(多機能型 生活介護事業 定員 30 名・就労継続支援 B 型事業 定員 10 名)
- ・ 生活介護センターたまご (生活介護事業 定員 20 名)
- ・ ケアホームたまご (共同生活援助事業)
- ・ レスパイトルームたまご (日中一時支援事業・ショートステイ事業)
- ・ 相談支援センターたまご (特定相談支援事業)

#### <情勢>

2015 年度の障害関連施策を俯瞰すると、障害者総合支援法の 3 年後の見直しの中から繰り返し聞かれるフレーズに注目せざるを得ない。「持続可能性」や「他制度との整合性」がそうである。年間 19 回の会議を持った社会保障審議会障害者部会では、「財源が限られており、要望するだけでは通用しない」「新たな施策を求めるのなら、廃止する施策を提案すべき」等の意見が前提にある議論が繰り返された経緯がある。つまり、そのことを実現できなければ、現在の制度を持続できない、といった論旨である。あわせて、介護保険や児童福祉法などで存在する「応益負担」を、障害者施策も足並みを揃えることで財源確保を目指そうとする意図が明確になりつつあることは無視できない。

以上を裏付けるかのように、2016 年 1 月、政府は来年度予算案を国会に提出、社会保障の伸びは、財制度審議会が昨年建議したとおり、5000 億円以内に抑えられた。高齢化や医療の高度化に伴った、いわゆる自然増分は、年間 8000 億円から 1 兆円と言われており、年間 3000 億円から 5000 億円の規模で社会保障費が実質的に削減されたことになる。

こうした削減のしわ寄せは、真っ先に生活保護世帯や高齢者世帯、そして障害のある人たちに及ぶことは言うまでもない。

社会福祉法人のあり方をめぐっては、社会福祉法人等の一部を改正する法律が今国会において可決成立した点に注目したい。障害分野においても措置から契約の時代になって久しいが、この間に事業所の数は増え続ける傾向にある。内訳は NPO 法人や株式会社がほとんどであるが、今法律が前面に打ち出そうとしているのが、税制面での均衡、いわゆる「イコールフットイング」である。今回の改正では社会福祉法人への課税は盛り込まれなかったが、地域貢献、つまり利潤を生む見込みの少ないであろう事業を、社会福祉法人に義務化するなど、法的責任の後退とも受けとられる点を見過すわけにはいかない。

私たちたまご会は仲間（利用者）を中心にした実践・経営・事業を、より豊かなものしていく事を念頭に取り組んでいく必要がある。

#### <事業全体総括>

あゆみ保育園との統合による事業展開にともない、職員の採用を大幅におこない、4 月より新規事業を見据えた職員体制でのスタートとなった。呉中央での新しい事業展開は当初の予定より遅れはしたものの 2016 年度 6 月より、生活介護事業所の開所が予定されている。また、川尻の土地に関しては、長期的な展望を持ちながら、保護者の願いの実現や利用者の豊かな地域生活をめざして、有効利用、また安定した経営基盤の確立に向けて、今後も協議を重ねていく。

日割り報酬の中、安定した経営をめざし、日々の報酬減額分を補う事を目的として、月 4 回の土曜日開所に継続的に取り組んできた。平均して 30 名以上の利用者があり、経営的な側面だけではなく、利用者や家族にとってもニーズが高く、土曜日開所は固定的なものになっていた。しかし、職員配置の問題（常勤職員の場合、土曜日に出勤することで平日に代休をとらなければならない、職員

配置に影響が出る)もあり、平成28年度4月より月2回の開所にする方向で検討している。また、短期入所は、火曜日・土曜日・日曜日以外は実施してきたが、曜日によって希望人数が多い時もあり、担当職員が調整に苦慮するということもあった。土日や祝日のショートステイのニーズも多くあるが、職員配置において取り組みが難しい現状がある。

生活介護センターたまご利用者は、2016年3月現在40名(昨年度同時期33名)(支援区分6=22名・区分5=15名 5.6以外=3名)の中で、定員20名に対し、1日の平均利用者は22~23名であったが、定員の1.5倍まで利用可能であるので、このままの定員で今後もおこなっていく。

しかし、入浴サービス利用の利用者が多く、職員の負担や時間的な課題も上がってきている。次年度より、呉中央にて新規の生活介護事業を開設予定なので、呉地区居住の利用者に呉中央の利用への声かけもおこなっていきながら調整していきたい。

障害者活動センターたまごは、生活介護27名・就労継続支援B型6名の登録。定員に対する一日平均利用率は、生活介護70%、就労50%前後で推移している。稼働率を上げていくことも課題になってくると思われる。

職員全体の動きとしては、毎週水曜日の職員会議の定例化、また、グループ会議での意見交換、終礼での利用者にかかわる情報の共有の徹底などをおこなった。職員会議では、ひとりひとりが情勢報告をする時間を設けるなど、いずれも利用者へのよりよい実践に向けて、職員全体で取り組む姿勢につなげていくことを目的に取り組んだ。

<事業別年間利用実績表>

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	14	25	24	25	26	24	24	26	22	24	22	22	26	290	
	15	25	23	26	25	22	24	25	23	24	23	23	26	289	
生活介護多機能型	利用数	14	643	673	663	687	634	592	698	655	627	627	563	622	7,684
		就労	129	134	118	122	113	110	129	110	96	106	85	92	1,344
		生活	514	539	545	565	521	482	569	545	531	521	478	530	6,340
		15	638	589	668	633	590	621	668	606	640	577	600	678	7,508
		就労	115	109	118	135	121	119	123	115	124	111	121	139	1,450
		生活	523	480	550	498	469	502	545	491	516	466	479	539	6,058
	日平均	14	25.7	28.0	26.5	26.4	26.4	24.7	26.8	29.8	26.1	28.5	25.6	23.9	26.5
		就労	5.2	5.6	4.7	4.7	4.7	4.6	4.9	5.0	4.0	4.8	3.9	3.5	4.6
		生活	20.5	22.4	21.8	21.7	21.7	20.1	21.9	24.8	22.1	23.7	21.7	20.4	21.9
		15	25.5	25.6	25.7	25.3	26.8	25.8	26.7	26.3	26.7	25.1	26.1	26.0	26.0
		就労	4.6	4.7	4.5	5.4	5.5	4.9	4.9	5.0	5.2	4.8	5.3	5.3	5.0
		生活	20.9	20.9	21.2	19.9	21.3	20.9	21.8	21.3	21.5	20.3	20.8	20.7	21.0
生活介護Ⅰ	利用数	14	515	484	514	522	472	488	509	429	487	424	391	525	5,760
		15	554	515	581	554	472	530	550	495	540	522	533	617	6,463
	日平均	14	20.6	20.2	20.6	20.1	19.5	20.3	19.6	19.5	20.3	19.3	17.8	20.2	19.9
		15	22.2	22.4	22.3	22.2	21.5	22.1	22	21.5	22.5	22.7	23.2	23.7	22.4

短期入所	稼働日数	14	21	22	23	22	15	18	19	18	18	17	16	17	226
		15	21	21	21	23	18	22	21	20	20	18	17	19	241
	利用数	14	92	80	89	85	64	73	75	62	64	59	58	67	868
		15	83	77	86	81	71	82	92	85	72	80	66	76	951
	日平均	14	4.4	3.6	3.9	3.9	4.3	4.1	3.9	3.4	3.6	3.5	3.6	3.9	3.8
		15	3.9	3.7	4.1	3.5	3.9	3.7	4.4	4.2	3.6	4.4	3.8	4.0	3.9
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ケアホーム	稼働日	14	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
		15	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	利用数	14	224	207	207	213	209	207	206	207	213	201	176	200	2,470
		15	209	209	208	212	210	205	214	209	209	202	199	215	2,501
	日平均	14	7.5	6.7	6.9	6.9	6.7	6.9	6.6	6.9	6.9	6.5	6.3	6.5	6.8
		15	6.9	6.7	6.9	6.8	6.7	6.8	6.9	6.9	6.7	6.5	6.8	6.9	6.8

## 2. 各事業報告

### 障害者活動センターたまご 就労継続支援B型（多機能型）

・クッキー・アイスグループ 事業報告書

担当職員（高山）

クッキー・アイスグループ 年間の反省と成果		<p>前年度は、個人の感情で動いてしまうことが多かったが、今年度は話し合いの場を持ちみんなで考え仕事をする意識を持つことが出来良かった。新しい仲間も増え、戸惑いながらも自分の役割を持ち仕事に取り組み集中出来たと思う。他のグループとも関わり、一緒に仕事をする上で認め合うことが出来た。</p> <p>在庫処分を気にしすぎて、配達回数が減ってしまい、あまり売り上げを伸ばすことができず給料を増やす事が出来なかった。</p>
	事業名	反省・成果・課題
4	呉みなど祭り（4月29日）	前回と場所が変わり、人通りが少ないところになったため売上が伸びなかった。 クッキー・アイスの旗を忘れたので次回は忘れないようにする。
5	心優堂販売（5月10日）	前日までにお土産用に頼まれていた商品を納品する際に、前もって連絡をする事が出来ていなかった。売上 ¥13000
6		
7	夏季販売	
8	夏祭り（8月29日）	多めにクッキーを作ったので余ったが、配達分・注文分で分けると全て売れたので良かった。アイスはたくさん売れ、特にパニラアイスが無くなったので次回はもう1缶用意したい。

9		
10		
11	呉特別支援学校バザー（11月7日） 呉高等技術専門学校（11月14日）	仲間と販売し、いろいろな方と関わり楽しく販売できた。また、他の施設の商品や新しい物を見て周り楽しく販売が出来た。呉高等技術専門学校では、袋を忘れたので次回は気をつける。
12	ふれあいコンサート（12月7日） 冬季販売	ふれあいコンサートの準備は前もってしており、個数も十分だった。また、前回より売上が上がったことを話し合い、みんなで達成感を味わう事が出来た。冬季販売とお歳暮等の作業が間に合わず納品が遅れてしまった。次回は計画を立てプリントにし準備していく。
1		
2	バレンタインデー（2月14日）	難しい物を作ろうとしたため、作業に時間がかかってしまった。次回は、全員で自信を持って作れる物を考えていく。販売については予定よりたくさん購入していただけたことをみんなで喜ぶことができたことが良かった。売上 ¥81000
3		

## 生活介護事業

### ・リラクゼーショングループ事業報告書

担当職員（清水・竹本）

リラクグループ 年間の反省と成果		今年度はPTによる、リハビリ・ストレッチが充実し、マットで臥床する時間も多くなる事ができ、仲間がリラックス出来たと思う。 今年度から、大掃除・ドライブ・買い物・クッキングを取り入れた。アートルネッサンスを時間かけて仕上げようとしたが、準備が間に合わず、急いで創った形になったが、仲間全員が参加出来た。
	事業名	反省・成果・課題
4	お花見にむけて こいのぼり創作	お花見創作は紙をピンク色に塗り、桜のように貼り絵をした。こいのぼりは、布を鱗の形に切って貼った。布貼りは、紙より切り貼り作業が難しいようだったが、鱗らしく仕上がり飾ってみんなに見てもらった。
5	七夕創作 散歩	紙粘土で星など型どり笹にくくり付けた。粘土をちぎる・こねる・型どる・色塗り等の作業の中で、立体的な素材の感触を感じる事ができたと思う。
6	七夕創作 散歩	気候が良い時には、そよ風の散歩道を活用し、散歩したり飲み物を飲んだりした。自然を感じる事が出来て良かったと思う。
7	夏祭りにむけて	夏祭りは引き続き紙粘土を素材とした。七夕創作で少しなじんだ感じで、火花作りがスムーズに出来た。土台の紙も紺色に塗り、その上に貼り付けて、夏祭りに飾った。
8	夏祭りにむけて	アートルネッサンスの準備が出来なかった。

9	アートルネッサンスにむけて 運動・散歩	アートルネッサンスの作品は「逆さ富士」を川口さんに土台を描いてもらいその上にちぎり絵をした。白い紙の色塗りをし、紙をちぎる・貼るの作業をしていった。ちぎり絵はそれぞれの仲間が作業工程で得意分野がありそれを発揮できた。当選出来なかったが、みんなで1つの作品を作った達成感を感じてもらえたと思う。
10	アートルネッサンスにむけて 運動・散歩	
11	散歩・ドライブ リラクッキング・フレコンにむけて お食事会・紅葉を見に行こう	クリスマス創作ではリースの形の型紙に色紙で切った星や花など貼り付けた。出来上がったものは、代表の仲間が他のグループにクリスマスプレゼントした。クリスマスの気分で楽しく出来たと思うリラクッキングでフルーチェを作った。自分たちで混ぜてみんなで楽しく食べた。野呂山に紅葉ドライブをした。外を見てはしゃいでいた。
12	クリスマス創作 大掃除	
1	初詣・新年会 新成人にむけて・節分創作	新成人を祝う会では、お花紙で花飾りを作ってプレゼントした。鬼の豆作りを新聞で丸めて作った。
2	ひなまつり創作 リラクッキング・園芸	クッキングでチョコを作った。チョコを溶かした香りで仲間がとてもいい表情だった。マリーゴールドの種植えは土の感触にみんな不思議そうな表情だった。
3	お花見創作	桜のちぎり絵作りで、紙ちぎりをさらに細かくちぎったり、より正確に紙を貼ることが出来る様になった。

障害者活動センターたまご 生活介護事業（多機能型）

・軽作業大地グループ 事業報告書

担当職員（在永）

<p><b>大地グループ 年間の反省と成果</b></p>		<p>どの作業をしたいかを自分で決めてもらい主体的に作業に臨むことで仕事に対する意識を高めることができた。それぞれが出来る作業も増え、その質も少しずつ高まってきており、そのことに評価を向けることで自信をつけてもらえたのではないかなと思う。 毎月の振り返りの中で、他のなかまが頑張っていたことを話してもらおうことで、お互いに認め合う意識も強くなってきているように思う。</p>
	<b>事業名</b>	<b>反省・成果・課題</b>
4	「たまだるま五月 ver」作り <u>国立清掃</u> 港まつりに向けて（「五月 ver」作り）	呉港まつりに向け、「たまだるま五月 ver」を考案・製作し、港まつり出店店舗にて販売することが出来た。一部ではあるが、なかまも販売に関わることができ、
5	「たまだるま夏休み ver」 考案・試作	「浴衣 ver」「夏休み ver」の2種類の「たまだるま」を考案し、夏季販売に向けて製作していこうと決めたことで、なかまの意欲を高めることができた。
6	夏季販売に向けて （「夏休み ver」「浴衣 ver」作り）	注文数と製作数とを都度報告して進捗状況を明らかにすることで、目標に向けて頑張っていくことと達成する意義を感じてもらえることができたと思う。
7	夏祭りに向けて （引き続き「夏休み ver」作り）	「夏休み ver」に絞って製作にあたることで、安定して作業に向かえたなかまが多かったように思う。 ただ、時間の問題もあり、祭り当日の販売になかまが関わることができなかった。これについては、タイムスケジュール等の検討が必要に思う。
8	↓	
9	「アートルネッサンス」作品作り	昨年来頑張ってきた「張り子」を使って、みんなでひとつの作品を作ろうと決め、「プラネット～環～」を製作。入賞を果たしたことで、なかまにとって自信に繋げることが出来たと思う。

10	冬季販売に向けて （「さるたま」考案・試作）	今年の干支にちなんで「さるたま」を考案し、福祉まつり、特支バザーに「お試し」で出品したところ完売となったことから、冬季販売商品を「さるたま」とすることに決定。これまでよりも細かい作業が必要で不安もあったが、なかまそれぞれが出来ることを精一杯やり遂げ無事に注文数をこなすことができた。 ただ、思いの外注文があった為、最後は職員仕事となってしまいう工が多かったので、段取り等を工夫して、よりなかまの作業工程を確保出来ればよかったように思う。年間の振り返りの中では、自分の関わった事だけではなく、他のなかまが頑張った事についてももしっかり意見を出してもらえた。
11	「ふれあいコンサート」に向けて （「さるたま」作り）	
12	冬季販売に向けて（「さるたま」作り） お疲れさま会	
1	新商品考案 （オープン陶芸商品考案）	新しい作業にチャレンジしようということで、「オープン陶芸」で商品が作れないかを検討し、これを新しいグループ作業として頑張っていくことと決定した。
2	オープン陶芸商品試作・練習 2015年度の振り返り	陶土（粘土）の扱いに慣れる事が出来るように、紙粘土・油粘土を使つての作品作り、練習を開始。なかまそれぞれのペースで「たたら作り」「丸め作業」「潰し成形」等をこなしていき、まずは「箸置き」を商品として作っていくこととなった。 表彰式を通して、それぞれが1年間頑張ったことを振り返ることで、来年度に向けた意欲を高めることができたと思う。
3		

清掃グループ：レスパイト清掃、ベッドメイキングについては、関わるなかまそれぞれが意欲的に取り組むことができ、グループ活動と合わせて「仕事」に対する意識を高めることができた。

## 社会福祉法人たまご会 2015年度（絆）グループ 事業報告書

### 担当職員（平）

絆グループ 年間の反省と成果		仲間が主体的に自分たちでやりたいことを決め、ビーズやまゆ玉を用いて楽しみながら商品作りをする中で夏季冬季販売に関わり、仕事への意識を高め達成感を感じてもらえた。創作活動を通してグループ意識を高めてもらいたかったが助け合い認め合うことになかなか繋げることができなかった。
	事業名	反省・成果・課題
4	みなと祭りに向けてストラップ作り 動物壁面飾り	動物壁面飾りでは、自分たちで意見を出し合い、写真を見ながら模写する中で仲間の意外な一面を見ることができ、持っている力を感じられた。
5	動物壁面作り 新商品作り	グループ意識を高めてもらうため協力しながら、ちぎり・貼り作業を行った。招待状も作り他のグループにも見学してもらい達成感を感じてもらえた。
6	夏季販売商品作り「森のくまさん」	新商品作りのため、呉パーに他作業の商品を見に行つた。気分転換にもなり、次なる販売に向けての気持ちの切り替えになった。
7	夏季販売商品作り「森のくまさん」 夏まつりに向けて	仲間ができる作業を考え「まゆ玉」を使った商品作り。ネーミングも自分たちで意見を出し合い決め、それぞれの作業を集中して頑張ることができた。
8	夏まつり商品作り「プレスレット」	夏季販売売上に喜び、達成感を感じてもらう中で仕事への意識を高めることができた。夏まつり商品は仲間が自由に作る「プレスレット」作りをし、楽しみながら商品作りをすることができた。
9	アートルネッサンスに向けて	販売から少し離れ、作品展に向け、ゆっくりと自分たちの得意な作業を取り入れ、仲間それぞれが自信を持って合同作品を仕上げるすることができた。
10	アートルネッサンス作品作り 冬季販売に向けて	冬季販売では、仲間から「ビーズを使った商品が作りたい」と意見が出され、仲間の自主性を感じる事ができた。

1 1	冬季販売商品作り 「こんぺいとうストラップ」	ビーズが細かく、作業が難しい仲間もいたが工夫することで作業をこなすことができ、自信に繋げることができた。素材についてはもっと検討が必要。
1 2	お楽しみ創作 風水ストラップ	販売も落ち着き、それぞれの頑張りを認めあった。気分転換になる活動として、好きなビーズを選び、楽しみながらオリジナルプレスレット作りをした。
1	チャレンジ創作	来年度の新作に向けて、仲間の意見を取り入れ、粘土や毛糸を使った「ボンボン」作りなどにチャレンジし、意欲的な活動にすることができた。
2	チャレンジ創作	チャレンジする中で季節の商品「こいのぼり」作りをした。みんなで歌いながら楽しく作業し、買い物（材料）も気分転換になった。
3	来年度に向けて 今年度のふり返り	部屋の片付け、模様替えをする中で、新年度に向けての意欲を高めることができた。ふり返りの中で新年度は仲間意識・認め合う力を伸ばしてほしい。

## ②レスパイトルームたまご（ショートステイ事業）としての取り組み

2015年度におけるショートステイ稼働日数は、241日（昨年226日）、利用総人数951人（昨年868人）となった。2014年度より職員配置の難しさにより、火曜日のショートステイをやめ、今年度もそのまま継続。しかし、保護者の高齢化によるけがや手術にともなう入院により、土・日のショートステイが必然的になった月があり、結果的に稼働日数と利用人数が少し増加した。今後ともこういった急な対応をせざるを得ない状況が考えられる。

## ③ ケアホームたまご（共同生活援助事業）としての取り組み

報告者：（原田）

### 1) CH職員会議

日時	話し合われたこと・確認したこと
H27.6/4（木）	1、情勢報告 2、医療連携加算申請に伴う日誌の変更と留意点について 3、勤務時間・内容変更についての提案 4、仲間の取り組みについて
H27.7/2（木）	1、情勢報告 2、仲間ミーティングから 3、勤務時間・内容変更についての提案 4、仲間の取り組みについて 5、虐待防止への取り組みについて
H27.8/6（木）	1、情勢報告 2、仲間の健康管理 情報共有について 3、仲間の取り組みについて（月まとめから） 4、（研修）個別事例での取り組み 記入について 5、その他（月刊勤務・確認事項ほか）
H27.9/10（木）	1、情勢報告 2、仲間の健康管理 ひと月が経過して 3、（研修）個別事例での取り組み について 4、（研修）障害特性を知る 5、その他
H27.10/1（木）	1、情勢報告 2、仲間への取り組みについて（月まとめから） 3、（研修）入居者への日常生活支援について 4、防災避難訓練について 5、その他（月刊勤務・確認事項ほか）
H27.11/13（金）	1、情勢報告 2、柳尾さんについて 3、仲間 取り組みについて 4、その他（確認事項）
H27.12/14（木）	1、情勢報告 2、仲間の取り組みについて 3、在庫確認について 4、その他（確認事項）
H28.1/14（木）	1、人権学習
H28.2/15（月）	1、仲間 取り組みについて 2、その他

H28.3/11 (金)	1、富永さんについて 2、仲間取り組みについて 3、その他、確認事項 4、防災避難訓練
--------------	--

④相談支援センターたまご 事業報告

2015 年度 サービス利用本計画およびモニタリング件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
本計画	9	4	3	6	4	6	8	9	2	3	8	8	70
モニタリング	8	3	3	7	7	13	4	1	3	3	9	7	68

⑤土曜日開所の取り組み

2015 年度も引き続き、月 4 回の土曜日開所を実施した。活動はレクリエーション的な要素を中心とした内容であった。1 回の開所で 40 名前後の利用者数。常勤を中心にローテーションを組み、不足をパート職員で補う体制で、平均 7~8 名の職員での対応をとった。経営的な面および保護者のニーズという面で、今後も継続していく必要があるが、重度の仲間の利用が多く、送迎、食事介助面での職員の絶対数が不足する場合があったり、当日急きょ職員が休んだ場合、配置基準を満たすことができない状況が懸念されるため、次年度より、月 2 回の開所を検討。保護者にも丁寧な説明をおこなう必要がある。

3. 勤務体制、時間等

社会福祉法人たまご会 日課表	
月・火・木・金	水・土
8:00 職員朝礼	8:00 職員朝礼
8:10 送迎出発	8:10 送迎出発
清掃	清掃
10:20 利用者 朝の会	10:20 利用者 朝の会
午前活動	午前活動
	11:30 給食開始
12:00 給食開始	
13:00 給食終了	13:00 給食終了
13:20 清掃	13:20 清掃
午後活動	帰りの会
15:00 帰りの会	13:45 送迎準備
15:30 送迎準備 送迎開始	14:10 送迎開始
16:45 送迎終了	清掃
	16:00 帰所 職員会
	事務整理等



17:00 業務終了	17:00 業務終了
------------	------------

\*次年度より 営業時間 9:00～15:30

#### 4. 2015年度 年間行事実施内容

	行 事 内 容
4月	10日：お花見ドライブ&親睦会 21日：仲間歓迎会 29日：みなと祭り 30日：郷原小学校3年生交流会
5月	11日：夏野菜の苗植え 13日：郷原小学校へのダンス練習 15日：たまねぎの収穫 24日：郷原小運動会
6月	4日：さつまいも苗植え 24日：はばたこう交流会
7月	3日：七夕まつり
8月	29日：夏まつり
9月	4日：野呂山学園作品展 16日：虹の会平和学習会 25日：郷原保育所運動会リハーサル
10月	14日：栗拾い 23日：秋の利用者交流会 30日：さつまいも掘り
11月	11日：大根収穫 24日：たまねぎの苗植え 25日：虹の会署名学習会
12月	1日：ふれコンリハーサル 18日：クリスマス会 5日：ふれあいコンサート 13日：呉港高校 ブラスバンド部演奏会 25日：そばうち 29日：仕事納め
1月	7日：初詣 14日：もちつきと新年会 25日：新成人を祝う会
2月	3日：節分祭り
3月	3日：ひな祭り 31日：年末賞与授与式

#### 5. 職員会議・災害訓練

	職 員 会 議 内 容
4月2日	今年度組織打ち合わせ
6月10日	情勢 第38次国会請願署名報告 呼称に関して 虐待(下関)について 第三者委員会
7月1日	情勢(岡本) はばたこう交流会評価と課題 施設虐待について
7月8日	成年後見人制度の学習 第三者委員会報告
7月15日	仲間の実践について
7月29日	夏祭りについて 仲間について
8月5日	情勢 日課表の作成 きょうされん賛助会員の取り組みについて 事務所の仲間の出入りに関して 職員持ち回りによる情勢報告
8月12日	情勢(平) 会議のあり方 実習生受け入れについて 仲間の呼称について
9月2日	情勢(室) 夏祭り振り返り 事務所出入りに関して
9月9日	情勢(高山) 研修報告(原田) 防災訓練について 仲間の実践課題検討
9月10日	防災避難訓練
9月16日	研修報告(清水) 防災避難訓練反省 実習報告会
10月13日	情勢(竹本) 研修報告(室・中本) 新任職員について 仲間実践課題検討 セコムに関する説明 仲間課題検討
10月14日	マイナンバーの取り扱いに関して(石田) 情勢(在永) 研修報告(岩木)
1月6日	行事振り返り 第39次国会請願署名・募金活動に関して
1月13日	人権学習研修(理事長)

3月23日	保護者会に関して 事業活動に関する評価表について
10月17日	実践課題検討会議
10月23日	ショートステイあり方検討会（服薬管理その他課題検討）
11月14日	ケアホーム職員会議（情勢学習・仲間の取り組みに関して他）
12月4日	ケアホーム職員会議（情勢学習・仲間の取り組みに関して他）
1月7日	第三者委員会
1月23日	ケアホーム職員会議（情勢学習・仲間の取り組みに関して他）
3月15日	防災訓練

## 6. 衛生管理・建物維持管理

- ① 害虫駆除、調査 →年6回（5・7・9・11・1・3月）
- ② 浄化槽点検 →毎月1回
- ③ 浄化槽汚泥抜取 →年1回（平成27年4月）
- ④ エレベーター点検 →毎月1回（遠隔監視メンテナンス）
- ⑤ エレベーター年次点検→年1回（平成27年11月）
- ⑥ 水槽清掃 →年1回（平成27年11月）
- ⑦ 建物定期検査 →年1回（平成27年11月）
- ⑧ 消防設備点検 →年2回（平成27年4月・10月）
- ⑨ 電気設備点検 →年6回（5・7・9・11・1・3月）